

梅鶯仏教壮年会報

第135号
2016年
8月28日

聞法親睦旅行

九月二十四日(土)
二十五日(日)

「初日」

「本山」参拝

「心の講座」聴講

「懇親会」(IN奈良)

「二日目」

「薬師寺」拝観

「東大寺」拝観

『梅鶯』のルーツを訪ねて(序)

2003年に結成された「梅鶯仏教壮年会」の名称『梅鶯』は、由緒ある梅鶯仏教青年会の名称を引き継いだことは周知のことですが、その梅鶯仏教青年会の活動実態はあまりよく知られていません。

この度、梅鶯仏教青年会の創設当時から深く関わられ、現在も篤信のお念の貴重資料が森勝昭会長のもとに提

供されました。
その資料に基づき、森会長に梅鶯仏教青年会を紹介して頂きます。
紹介内容には、当時の時代背景を彷彿させるものもあり、大変興味深いものです。
※なお、一部住職が編集しておりますことをご了承願います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『梅鶯』のルーツを訪ねて(①)

会長 森 勝昭

平成二十七年秋頃に、貴重な資料を預かった。

昭和三十七年梅鶯仏教青年会(以下「梅鶯仏青」)の理事長をされていた木村秋満さんから、梅鶯仏青の記録簿が残っていたのでと見せてもらった。

表紙には、

昭和二十二年二月起

記録簿

梅鶯青年会

と筆書きされ、その記録簿の目的として「本簿ハ本曾ニ関スル諸般ノ事業ヲ記録記載シ 今後ノ發展ニ寄與スル目的ニ以テ設置スルモノナルヲ銘記シ 之ガ永久的貴重ナル簿冊ヲ

ランコトヲ念ジテ止マナイ次第ナリ 昭和貳拾貳年参月吉日」と記載があり、そこには昭和二十二年から三十七年十二月までの活動した内容が、こと細かく記帳されていた。

戦後一年六ヶ月が過ぎて、まだ世の中は敗戦後の混乱していた頃に、仏教青年会を立ち上げられた当時の法輪寺住職様始め、お世話された方々、会員皆さまのご苦勞に感銘と衝撃を受けました。会員は、お西さん、お東さんなど関係なく門戸を広く開けておられました。
その記録簿の内容と梅鶯仏青の歴史をお伝えしたいと思います。自分の感想と勝手に解釈した部分があることをお許し願います。なお敬称を略した部分があることもご了承願います。

創設時の主要メンバー(中央が木村秋満氏)



題材法話

浄土真宗のみ教え⑤

「真実の教え」

＊拝読本をお読み下さい。

のことは「真実の教え」とい

うことでは。

私のいのちの行き先を問

う「教え」が真実であるか

どうかは重大なことです。

○真実の見極め

まず、その教えが真実か

考えてみましょう。

結論から言って、救う側

が「救う者」と「救わない



いう詩があります。

山を登る道はいくつか

あるが、頂上で眺める月

は同じである、といった

ことも、教えや信仰の宗教で

違うけれども、道筋が違

うだけで行き着く先はみ

な同じだ」という考え方

です。

これは一見もつとらし

く聞こえますが、あくま

で評論家的な発想です。

宗教はこの私のいのち

がたどり行き着く問題で

あり、人ごととしてどの

宗教も同じだと規定する

ことはまったく意味があ

りません。

この私が登ることので

きる道はどれであるか。

そしてその道は間違い

なく頂上まで行き着くこ

とが出来たのか。

そこに私にとっての

「真実性」があるはずで

す。

対象とするものを救いの

側の「真実性」。

なくこの私が間違

なく救われるとい



う「救われる側の真実性」

この両方が相まって「救

済」が成立するのです。

○親鸞聖人の真実

では親鸞聖人はどのよう

に見極められたのでしょうか。

まず「救われる側の真実

性」として、比叡山におけ

る20年間という歳月を掛

けたたどり着かれたのが、

「この私が救われた道はな

い」という結論だったのだ

す。

「地獄は一定すみかぞか

し（地獄しか行きようのな

かったの私」という見極め

だっただけです。

ものちろん仏教はあらゆる

ものの救済の対象とする真

実の教えです。けれどもそ

のの中にあってもなお、この

私（親鸞聖人）だけは救わ

れようのない者であるとの

結論です。

ところがそのどん底の中

で、というよりもそのどん

底の中だからこそ、一筋の

光明に出会われた

のです。

の数多くの仏さま



である」と仰って下さる仏

さまがおられたのです。

それが阿弥陀如来という

仏さまでした。

念仏往生の道に出会われた

のです。

この「絶対救われようの

ない私」と「絶対救うよう

の本願」と「絶対救うよう

の思われるものが同時に成

立したのです。

「自らを捨てさり、仏様

に任せる」これは別々に存

在するのではなく、一体と

して存在し、「二種深信」

「機法一体の信心」と呼ば

れ、南無阿弥陀仏のみ教え

の大きな特徴であるとも言

えます。

○お釈迦様の出世本懐

この南無阿弥陀仏のみ教

えは「仏説無量寿経」とい

うお釈迦様のご説法の中

で示されています。

お釈迦様は「八万四千の

法門」といわれるくらいに

沢山の法を説かれました。

「経」でもこの「仏説無量

寿経」を説かれたときのお

釈迦様の様子は特別であつ

た下記されています。

以下次号

七月例会住職法話よ